

介護職員が教育的視点を構築するために —授業アシスタント導入の取り組みから報告—

静岡福祉大学
前川有希子

はじめに: 昨年度発表のふりかえり

- 実習を契機に福祉現場への就職を積極的に求めない学生がいる。
- 実習体制の再構築が必要である。
参考資料: 静岡県社会福祉系大学・短大・専門学校に対する就労に関する意識調査報告書: 静岡県社会福祉協議会静岡県社会福祉人材センター, 平成21年3月
- 実習指導者の役割とは何か。
介護職の職業観を示すのは実習担当者であろう

介護人材に関する記事

6月25日 朝日新聞


「集めるより育てるが大事」
では、どのように育てるのか?



介護実習の醍醐味 (昨年の発表では)

- 学校で学んだ理論・技術の実践
- 基本的技術の展開
- 実践知を得るための体験
- 人との出会い
 - ① 受け持ち利用者の人生に触れる
 - ② 将来像・近未来像

理想の介護福祉士との出会い



実習指導者の資質と役割

- ※ 実習生を受け入れる体制をつくる
- ※ 実習生の居場所をつくる
- ※ **実習生を直接指導する介護職員への指導をする**

実習指導者の主業務

介護技術を直接指導しているか

図1 実習指導者の主業務 図2 実習指導者の指導内容

介護実習のキーパーソン

- 実習担当者の存在
 - ※ 実習生とともに行動、背中を見せてくれる
 - ※ 実習記録にコメント記載
 - ※ 実習生と利用者の前でコミュニケーションを図る。
 - ※ 実習生にとって最も身近な存在

↓

学生にとって近未来像・理想像

昨年の提案

- 授業参加してみませんか
生活支援技術(清潔・排泄:1年生後期)



平成22年10月
「訪問入浴の実際」
学生がモデルとなって訪問
入浴について学びました。

目的

- ①原理原則を教授する場面に立ち会うことで、実習場面での個別支援技術指導の方法を考える機会
- ②実習指導者としての教育的視点の構築
- ③教員と実習指導者の連携

授業アシスタント

- 11名 (男性4名、女性7名)
- 介護経験5～25年の介護職員である。
従事している業務内容 管理職2名、
介護主任・介護長3名 特養・老健・デイ職員6名
- 介護福祉士10名、ヘルパー2級1名。
資格取得は養成校卒業1名、国家試験受験9名

授業内容と研究方法



- 平成23年10月7日(金) 13:00～14:30
- 学生3～4名を担当し、授業課題「寝床状態のシーツ交換」90分の授業を展開した。
- 学生から本授業についてのリアクションシートを記入してもらった。記述内容を分析し、意味の類似性によりグループ化を行い、カテゴリーを抽出した。

※事前に3回 事前学習会を実施し、ベツ差が生じないように配慮した。

結果 学生30名の意見



- 授業について
わかった・できるようになった 26名
わからなかった・できない 4名
- 介護職員の印象
①話しかけやすい人
②ベテラン・仕事ができる人
③適切な助言をくれた
④ほめてくれた
⑤口先だけでなく、一緒に動いてくれた

「わかった」と評価した26名の意見をまとめた。
否定的な意見には「人を区別する」「グループのみんなに公平でない」「わかるような説明でない」があった。



静岡福祉大学 介護福祉コース 授業風景



考察

- 介護職員は好印象をもたれていた。
- カーネギー 「人に好まれる6原則」
※誠実な関心を寄せる
※笑顔を忘れない
※名前を覚える
※聞き手に回る
※関心のありかを見抜く
※心からほめる

学生の介護職員の印象は、この6項目と近似している。

実習生と接する際にはこの6原則を踏まえて行動してはどうか。

人を育てる為には、
①その人を知ること
②その人に知ってもらふこと